

・欠損補綴の目的から考える・
機能させるパーシャルデンチャー・オーバーデンチャー

奥森健史

欠損補綴において、パーシャルデンチャー、インプラントを含むオーバーデンチャーも重要なオプションになります。欠損部位に咀嚼ユニットをいかに適正なポジションに回復し、生理的機能を回復させるための“力”に対し口腔内にてどう維持・安定させるかが勘所となります。補綴後のリスクも予測し再介入時の“次の一手”を考えておくことも必要ではないでしょうか。歯を復元させるプロセスには、“色”“形態”という目に見える部分と、それらが歯列として、一体化しそこへ加わる機能的考察すなわち目には見えない“力”という部分をどうコントロールするのかを双方が意識することで高い水準でチェアーサイドとラボサイドでのコラボレーションにつながるのではないのでしょうか。

時代はデジタル化への進む中 “how to {やり方}”ばかりのトピックスが多い日常臨床において可撤性装置となるデンチャーワークにとってより口腔内でより長期に機能するための要件をラボサイドでも考察することもじゅうようではないのでしょうか。

本講演では、今までの臨床例をもとにラボワークからの切り口でお話したいと思います。

略歴

1984 東洋歯科技工学院

1992 渡独 ドイツ {プフォルツハイム}

2000 有限会社 デンタル・プログレッシブ開設・・・現在に至る

代表 奥森健史

咬合・補綴治療計画セミナー インストラクター

日本補綴学会 準会員

デントウラム社公認インストラクター

日本歯科技工士会 認定講師

日本顎咬合学会 指導技工士

古希の会 メンバー

大阪 S J C D 会員